

地域と共にある学校づくり

発行： 長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

昨年度末より休業、分散登校、学校再開に伴う様々な新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が県内の学校で行なわれています。

そこで、今回は、新型コロナウイルス感染症予防対策を取りながら進められた学校と地域が連携・協働した取り組みを紹介します。

「消毒ボランティア」(茅野市立北部中学校)



茅野市の市民活動センター「ゆいわーく茅野」が募集した「小中学校 消毒ボランティア募集」を受け、茅野市立北部中学校へボランティアに来られた5名のみなさんの活動の様子を視察しました。この日は、小中学校合わせて4校にボランティアさんが出向いたそうです。

この活動が始まったきっかけは、新型コロナウイルス感染症の関係でボランティア・市民活動ができない中で、ボランティアの方のモチベーション維持を目的に、「市民活動センター」が企画し、そこから教育委員会に確認・協議して始まったそうです。

市民活動センターではチラシを作成し配布したのと同時に、HPにも案内を載せ募集しました。この日は、学区内の方ではありませんでしたが、登録をしてくださった5名の方が広い校舎を手分け

して保健の先生と一緒に回っていました。

今回の募集では、①学校へ行く際にはマスク持参・体調管理などの感染対策を行う、②ボランティア保険に加入する(350円自己負担)、③リスク対応のため、学校へ個人情報を提供する、④子どもとは関わらない、という4点を確認しているそうです。消毒用品は学校が用意するそうですが(消毒

は地元の企業から提供されたもの)、マスクや手袋は持参するようになっています。

ボランティアの方は、「こんな状況の中でできることをやろうと思って参加した」とおっしゃっていました。本当にありがたいことだなと感じました。1学期終了くらいまでは続けたいようですが、広く、無理なく、気軽に参加してほしいと思いました。

(南信教育事務所生涯学習課 指導主事 水野 直昭)



「読み聞かせボランティア」(原村立原中学校)

原中学校では、読み聞かせを始めて10年以上が経つようです。もともと小学校で行なっていましたが、中学校でもぜひやってみたいという声があり、始めた経緯があります。当初は、春と秋の読書旬間に併せて年2回行っていたものを、年9回ほど行なうようになって6年目だそうです。

原村としても今年度「第3次原村子ども読書活動推進計画」を策定し、毎月第3日曜日を「家庭で読書の日」として、読書を推進していくそうです。司書の先生が、これから村の図書館、地域、学校が連携して読書環境を整えていきたいという話をしていただきました。

この読み聞かせを行なってくれているのは、「カントリーマアム」というボランティアのみなさんで、ここには20名以上が所属しており、小中学校へ読み聞かせに行くとのことでした。



ただ今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、クラスに入っている読み聞かせができないため、放送による読み聞かせを行いました。現時点で、放送による読み聞かせは中学校独自の試みだそうです。放送室で本を画面に映しながら、読むので大変なようでしたが、子どもたちは真剣にテレビ放送に耳を傾けていました。

今回カントリーマアムの方が選んだ本は、岡谷市出身の童画家（童話作家）武井武雄の「にしきのむら」でしたので、読み聞かせを終えた後、そのような豆知識も紹介していました。中学生からは「小さい頃に読んでもらった本で懐かしい」との感想がよせられているそうです。

9月の読み聞かせから、通常の読み聞かせに戻す予定ですが、放送を使用したことは「学年対応でもできそう」「ボランティアの方が忙しい場合には負担軽減もできる」等いろいろな可能性が見つかったと校長先生からお話がありました。

（南信教育事務所生涯学習課 指導主事 水野 直昭）



「読書ボランティアによる蔵書消毒作業」～地域、保護者とつくる新しい生活様式～ （塩尻市立桔梗小学校）



コロナ禍でも読書を楽しみたい子ども



本を消毒する読書ボランティアさん

2時間目終了のチャイムが鳴り数秒後、たくさんの子どもが図書館に入ってきました。子どもは本を返却すると、すぐにお目当ての本棚に小走りで駆けつけていき、読書を楽しんでいました。桔梗小学校では、コロナ禍の今でも以前と変わらない図書館で読書を楽しむ子どもの姿が見られます。コロナ禍における図書館開館のための配慮点は多く、新しい生活様式への対応が必要です。そのような時こそ地域や保護者との連携・協働が必要ですが、コロナ禍でボランティアさんが学校へ入るリスクから、消毒作業等をお願いしづらいのが現状です。そのような中で、桔梗小学校の読書ボランティアさんは、当番を決めなくても主体的に学校を訪れて蔵書消毒等を行い、子どもと笑顔の時間を過ごしています。なぜ桔梗小学校はコロナ禍でも地域、保護者との積極的な連携・協働が可能なのでしょう。

6月1日の図書館開館を前に、司書の先生が「私一人では本の消毒は難しい」と、学校支援コーディネーターさんに相談したことで、読書ボランティアさんの消毒作業が実現したということです。校長先生に、ボランティア

さんに学校へ入っていただくことはお願いしづらくなかったかを聞くと「学校がお願いするのではなく、コーディネーターさんが読書ボランティアさんをつないでくれた」と教えていただきました。地域の立場でコーディネーターさんが学校の日々の困り感をとらえ、ボランティアさんをつないでいることが大事なポイントであり、コロナ禍でもボランティアさんが積極的に入ることができるのです。

また、桔梗小学校は、先生方とコーディネーターさんとの距離が近いことに気付きます。司書の先生は「コーディネーターさんに毎日いつでも相談できる。一週間後にやっと会えるような状況では、どうにもならない」と話していました。コーディネーターさんも「学校へ来ると校長先生から私に声をかけに来てくれる。とても話しやすい」と話していました。学校の敷居を低くしてコーディネーターさんが動きやすいことは、コロナ禍でも学校、保護者、地域が連携・協働できるポイントであると感じました。

読書ボランティアさんは「読み聞かせができず、今年度は何もできないかも。でも、誰かが『やろう』と言わなければね」と話していました。読書ボランティアさんに「やらされ感」はなく、「子どもを育む当事者」となっていました。そして、できないからやらないのではなく「やろう」と自ら動くようにしているように、「子どものため」の取組にやりがいを感じていました。

このように、学校と地域、保護者は win-win な関係であり、協働活動となっているから、やらされ感はなく、ボランティアさんは主体的に学校へ入っていくのです。

これらのようにコロナ禍においても桔梗小学校が積極的に保護者、地域と連携・協働し、新しい生活様式づくりを進めていけるのは、これまで塩尻市が学校と地域、保護者が目標や課題を共有することを大切にしたり、法に基づくコミュニティ・スクールの利点を生かし、学校支援コーディネーターが、それぞれの学校でしっかり役割を果たせるようにしたりしたことの積み重ねの結果です。コロナ禍で、今まで以上に学校、家庭、地域が連携・協働していく必要がある今、桔梗小学校の「学校の敷居が低く、話しやすい」と感じる距離感を参考に、学校、家庭、地域の連携・協働した取組を広げ、コロナ禍を乗り切りたいと思います。



声をかけ合う校長先生とコーディネーターさん

(中信教育事務所生涯学習課 指導主事 中島 章)

「生徒の不安解消へ 小原ヶ丘塾サタデーパワーアップ教室」(高森町立高森中学校)

学校が再開となった6月の土曜日、高森町立高森中学校の3年生の教室には、熱心に授業に取り組む生徒の姿がありました。高森町では、「休校で学習に対する不安をもつ生徒に対して、補充的な学習の場を設けることで少しでも不安を解消することができないか。」と考え、小原ヶ丘塾サタデーパワーアップ教室を開講しました。

1 実施のきっかけ

この活動のきっかけとなったのは、高森町 CS 統括ディレクターを務める公民館長さんが校長先生と連絡を取り合う中で、休校による学習への不安を感じている生徒に対して地域として何らかの取組ができないかという提案をしたことからです。そこで、学校として実現可能な取組を検討した結果、今回の補習授業が実現することとなりました。



もともと高森町には水曜日の放課後を利用して自習を行う「小原ヶ丘塾(地域未来塾)」が存在していました。その仕組みを元にしながら今回の目的に合わせ、①十分な時間が確保できる土曜日に実施する(部活動に参加する生徒を考慮して午後に実施)、②参加対象を3年生に限定する、③時間内に扱う内容を決めて授業形式で行う、という3点を変更して実施されました。

2 具体的な取組

期間は6月から夏休みまでの6回を計画し、国語や数学など5教科について、1日3時間、2教室を利用して6コマを実施しました。生徒の参加は自由、事前に示された単元を参考にして受けたい授業を選択して申し込みます。講師の先生方は、元教員の方々が務めます。

授業の内容について事前に教科主任と講師の先生方とで打合せの時間を設け、扱う内容や指導法について情報共有がされました。さらに、生徒の様子について情報交換を行う事で生徒の実態に寄り添うように進められました。

3 授業の様子から

事前の打合せが十分に行われているため、どの教科も内容を絞って進められました。また、通常よりも少人数であることを生かし、丁寧な個別指導が行われていました。

生徒からは、「練習問題が自力でも解けたので良かった」「今まで苦手だったけど自信が付きました」「助動詞が分かってきたので、忘れないように家で練習しようと思いました」「小学生のころ何も考えずに読んでいた詩を、もう一度読んで意味を深く考えてみたいなあと思いました」等の意欲的な感想が寄せられました。

「動かなければ何も変わらない。声を掛けていかなければ何も始まらない。こういう状況だからこそ、何をするか、何ができるかを共に考える機会になるのではないか」と公民館長さんはお話ししてくださいました。小原ヶ丘塾サタデーパワーアップ教室は1学期でひと区切りとなりました。「1人でも学びたいという希望があれば、環境を整えたい」。学校と地域の共通の願いのもと、9月からは5教科の授業が受けられる良さを生かしながら、平日の放課後を利用し対象学年を増やした新たな小原ヶ丘塾の実施を計画しているそうです。



(南信教育事務所飯田事務所 指導主事 伊藤 公敏)

「コロナ禍でもできる交流を～環境整備活動を通して～」(千曲市立八幡小学校)

八幡小学校では、これまで、地域の方と子ども達が一緒に草取りをし、作業を通して交流を深める活動を行ってきました。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で実現できていませんでした。そんな状況の中で地域の方からあがったのは「子どもたちのために何かやりたくて、いてもたってもいられません！」の声。それを受けて、子どもたちは参加しない形で環境整備作業が行われることになりました。

コロナ禍の中で行われた活動の様子をお伝えします。

ボランティアさんの活動を知らせる…担任の先生から子どもたちへ

今回、ボランティアの方々が学校に来て活動してくださることは、担任の先生から子どもたちに事前に伝えられていました。



ボランティアの皆さんの活動は積極的に知らせたいものです。来て下さった方々と関わりあうことは、子どもたちと地域との繋がりを強くしていきます。また、学校や地域のために働く大人の姿は、将来大人になっていく時の良いお手本になります。



作業開始前その1…ボランティア同士の交流の場

作業開始は8時ですが、7時半過ぎから地域の方が少しずつ集まってこられました。集まった皆さんで、近況報告や農作業の進み具合など、わいわいとお話が弾み、ボランティアさん同士の交流の場にもなっていました。

作業開始前その2…子どもたちと挨拶



昇降口では、手を振りながら朝の挨拶をする様子が見られました。これまでのハイタッチ挨拶から、手を振る挨拶へとシフトしています。地域の皆さんも、昇降口で手を振りながら笑顔で子どもたちを迎えていました。地域の方と子どもたちも、挨拶を通じてつながりを深めていました。

作業が始まりました…時間と場の共有

草取りをしていただく場所は校庭です。登校してくる子どもたちからは、校庭の様子がよく見えます。

そんな中、何人かの子どもたちが「お手伝いがしたい」と言って短時間、草取りに参加していました。活動の場を近くすることで、地域の方との自然な交流が生まれていました。

ちょっとしたやりとりで、「顔の見える関係」ができていきます



活動の時間、場所等の工夫で様々な関わりや交流を生み出すことができます



(北信教育事務所生涯学習課 指導主事 岡田 絵美)

「活発な熟議を行うための工夫」（軽井沢町立軽井沢西部小学校・上田市立西内小学校）

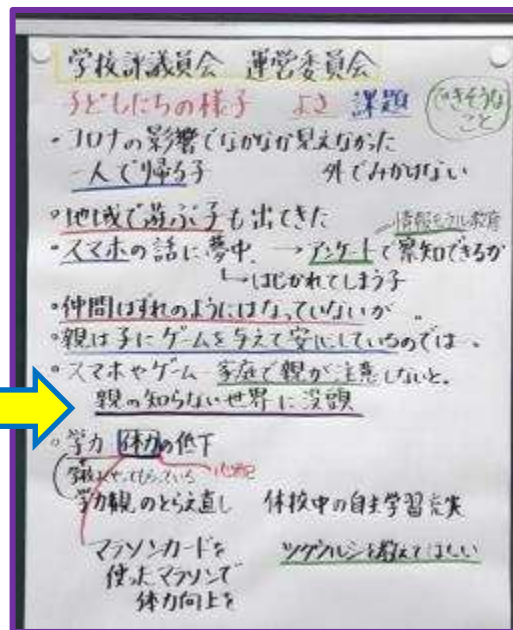
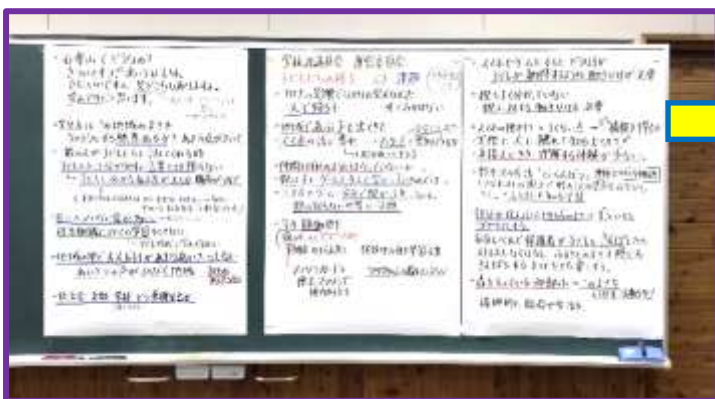
会議の中で熟議（多くの当事者による熟慮と議論を重ねながら課題解決を目指す対話）が計画され、地域ぐるみで学校支援ができるように「学校と地域の実態や課題を共有するとともに、どのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのかという目標やビジョンを共有するため」の話し合いが行われています。



模造紙に意見を集約して見える化・共有化

軽井沢西部小学校では社会福祉協議会の職員の方をコーディネーターとして 10 名の運営委員で構成されています。

会議の中で、教頭先生が黒板上の模造紙にマジックで色分けをしながら意見や願いを集約します。会議状況の見える化が課題のわかりやすさ、話し合いのしやすさにつながります。また次回の運営委員会の振り返りや会議に出席していない教職員の共通理解に有効です。



自分の考えを文章化して整理

1 学校と地域の連携・協働テーマ

「地域とともにある学校 ～支援を超えて連携・協働へ」

2 テーマについて

「地域とともにある学校」「子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築」「学校を核とした地域づくりの推進」をめざしながら、学校と地域が双方向で並立・対等の関係で西内小の教育をともに支えていきたいとの願いを込めたテーマである。

3 願いの共有

4 活動の方針

- (1) 学校と地域とで教育への願いを共有する。
- (2) 地域の人材、物的資源の活用を図る。
- (3) 子どもも大人も楽しい、やりたくなる活動を設定していく。
- (4) 名前でも呼び合える、顔が見えるかわりをつくる。

西内小学校では地域住民の方をコーディネーターとして 13 名の運営委員で構成されています。

会議の中で左記の資料が配布されます。これを見ながら、頭に思い描いている願いや考えを整理し、自分の言葉として綴ることで当事者意識が高まり、熟議できる環境につながっています。

またこのコロナ禍でマスク生活による熱中症が心配であることや地域の宝である金管バンドが思うように活動ができていないことが話題として出され、その対策方法について、学校として地域として出来ることが意見交換されました。

（東信教育事務所生涯学習課
指導主事 篠原 靖昌）

今回紹介した事例から新型コロナウイルス感染症対策を十分に取りながら、地域と学校がしっかり話し合いを重ね、様々な形で学校支援を継続してくださっている様子が見えてきます。

様々な課題を地域と共に乗り越えながら、子どもたちの笑顔のために共に手を取り合いながら新型コロナウイルス感染症対策をしていく必要性を感じました。



長野県生涯学習推進センターより講座のご案内



地域と学校の連携推進研修

「持続可能な社会づくりに向けた教育の新しい在り方」

地球環境の異変をはじめ、世界には様々な課題が山積しています。これらはひとりひとりが理解して、行動につなげていく必要があります。ESD(持続可能な開発のための教育)の考え方や、具体的な方策であるSDGs(持続可能な開発目標)の内容を学び、これからの学校教育や社会教育の場面で、私たちが「持続可能な社会」実現のためにできることを考えます。

【期 日】 令和2年10月20日(火)

【会 場】 長野県生涯学習推進センター 講堂

【研修内容】

講義：「ユネスコスクールを中心としたESD/SDGsの広がり」

講師 信州大学学術研究院人文社会科学域教育学系

准教授 安達 仁美 氏

事例発表：高山村立高山小学校「ユネスコスクールの事例発表」

塩尻市宗賀公民館 「どんぐりプロジェクト♪」

ワークショップ・まとめ



☆昨年度の様子



申込方法については、県生涯学習推進センターのホームページ、
または「長野県総合教育センター 研修講座案内」をご覧ください。

HPはコチラ⇒



☆これからの学校づくりのご参考に！多くの先生方のご参加をお待ちしています。

■■お問い合わせ先■■

長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 Tel: 026-235-7437 E-mail: bunsho@pref.nagano.lg.jp

東信教育事務所生涯学習課 Tel: 0267-31-0252

南信教育事務所生涯学習課 Tel: 0265-76-6861

南信教育事務所飯田事務所 Tel: 0265-53-0460

中信教育事務所生涯学習課 Tel: 0263-40-1977

北信教育事務所生涯学習課 Tel: 026-234-9552

長野県生涯学習推進センター Tel: 0263-53-8822

生涯学習プログラムガイド集 HP アドレス ▶ <https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/bunka/shogai/guide.html>